

里山鳥獣らぼ 活動紹介

落合 茉里奈

自己紹介

博物館にはたくさんの資料が届きます。普段から目にする動物や、貴重な動植物まで。それらを保管できる形にするのは大変な作業です。里山鳥獣らぼは、そんな標本づくり作業をちょこっとだけお手伝いしているグループです。

主に鳥類の仮剥製・哺乳類の骨格標本・毛皮なめしなどをしています。

標本ってなんだろう？

標本とは、産地や最終日などのデータと一緒に現物を保管したものです。動物の場合は、そのまま置いておくと腐ってしまうので、防腐処理をして保管します。

ここでは鳥類・哺乳類の標本について紹介します。

本剥製

生きていたときと同じポーズを取らせた展示用の剥製です。「剥製」と聞いて多くの方がイメージするのは、本剥製ではないでしょうか。生き物の形に成形した中身に、肉や脂肪を取り除いて防腐処理した皮をかぶせて作ります。中身をつくるのがとっても難しい。

仮剥製

研究用に保管されている剥製です。小型哺乳類や鳥類は防腐処理をしたあと、綿を簡易的に詰めて、収蔵スペースをとらないよう、「きをつけ」の姿勢で保管されます。サイズの大きい哺乳類は、綿をつめずに毛皮（フラットスキン）で保管します。里山鳥獣らぼでは仮剥製をメインで作っています。

骨格標本

動物の死骸からお肉と脂肪を取り除いて骨だけにした標本です。小型の動物は解剖後、ポリドントなどのタンパク質分解酵素を使って骨だけにします。中型哺乳類より大きい動物は、解剖後、鍋で煮て骨だけにします。

こんなことしてます

つくったものを少しご紹介します。毛皮や骨格標本は一日で完成させることはできませんが、作業の一部をみんなで分担して標本づくりをしています。仮剥製は集中の要る作業ですが、慣れてくると一日で完成します。



中型哺乳類の毛皮



アナグマの頭骨



鳥の仮剥製



鳥の仮剥製（イソヒヨドリ）



鳥の仮剥製（アオジ）



鳥の仮剥製（メジロ）

これからの目標

今後は、保管用の標本のほかに、※ハンズオン展示やワークショップに使える触れる毛皮・骨パズルなどのグッズづくりもできたらいいな~と思っています。

野外で何か見つけたとき、「汚いなあ」と思うのではなく、どのように活かすかを想像できる人が一人でも増えてくれたら嬉しいです。

※さわれる展示のこと

里山鳥獣らぼ 参加者募集！

里山鳥獣らぼは生き物好きがゆる〜い感じで集まるグループです。まだまだ実施回数も参加者も非常に少ない団体ですが、メンバーの「こんなことやってみたい」に応えられるように頑張ります。ご興味のある方は、ぜひ facebook のグループページに参加してみてください。

※セミナーとは異なり、講師はおりません。参加できるのは、刃物が扱える方・「見えない汚れ」が理解できる年齢の方になります。